



Contents

- 宏池会六十周年の年に
- 日露2+2
- G7外相会合
- 池田勇人像前での植樹式



宏池会所属議員と国会議事堂前で集合写真を撮る

■池田勇人像前での宏池会60年記念植樹式

5月28日、広島市内にある元内閣総理大臣で宏池会の創設者である池田勇人の像の広場で、宏池会60周年を記念して、植樹式を開催致しました。

当日は、宏池会会長である岸田文雄、林芳正宏池会座長、山本幸三内閣府特命担当大臣をはじめ、多くの国会議員、県議会議員、市議会議員の他、地元の皆様にご出席いただき、また湯崎英彦広島県知事、松井一寛広島市長にもご出席とご祝辞を賜り、盛大に開催することができました。



季刊「翔」七十二号 発行平成二十九年六月二十四日
自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室
〒730-0013 広島市中区八丁堀六一三 和光八丁堀ビル九階

岸田文雄後援会事務所

- 国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118
- 広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161
- 岸田文雄ホームページ
<http://www.kishida.gr.jp/>

岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、株日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後8期連続当選中。
自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣（沖縄担当など）で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。
平成23～24年にかけて野党自民党において国会対策委員長として指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。
また24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。
平成24年に発足した第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。現在の第三次安倍第二次改造内閣まで一貫して再任され、戦後外務大臣の在任期間歴代2位、専任の外相としては最長となっている。

岸田文雄フェイスブック
www.facebook.com/kishdafumio
日々の活動写真を中心に更新しています

宏池会六十周年の年に

外務大臣 岸田文雄

池田勇人総理とその元に結集した、後に総理となる大平正芳、鈴木善幸、宮澤喜一などを始めとする多くの有為な人材によって、政策集団「宏池会」は昭和三十三年に創設されました。故事「高光の榊に休憩して宏池に臨む」との節から陽明学者の安岡正篤先生が命名された「宏池会」という名ですが、その後宏池会は、自民党の中で唯一現在まで続く最古参の派閥となり、自他共に認める自民党保守本流の派閥となりました。

常に自民党と戦後日本史において政治の中心を歩み続けてきた宏池会は、今年で六十周年を迎えました。その宏池会が今日まで築いてきた歴史を振り返ると、二つの特筆すべき点があります。

ひとつは「自由に対する思い」、もうひとつは「現実に対する冷静な認識」です。

昭和三十三年宏池会創設当時、これまでの戦前・戦中、そして終戦直後の占領期等での様々な抑圧されてきた社会を振り返り、戦後の日本政治に対して我々の先輩方は、言論の自由や表現の自由などといった自由に対する強い思いを持って政治に立ち向い、戦後日本政治の潮流を作つて常に中心にあり続けました。そしてこの強い思いは、後々宏池会がリベラルと言われる流れにつながり、例えば「権力には極めて抑制的且つ公私の際には公平で平等でなければならない」等、政治姿勢や哲学にも

繋がっていききました。

また宏池会とは常に現実に対する冷静な認識のもとに政治を担ってきました。時代が大きく変化する中であつて、時代の現実を正面から見据え、国民が何を望んでいるのか、国はどうあるべきなのか、こうしたことを冷静に考えて政治を進め、戦後期においても特定の観念やイデオロギーに捕らわれることなく極めて現実的で冷静な認識と判断によって戦後復興を成し遂げ、今の日本の発展に繋がってきたのです。そしてこれは、戦後の日本政治を経済に転換させるといふ大きな節目を作つた池田勇人総理から続く伝統として受け継がれて参りました。

時代が大きく変化する中であつて、時代の現実をしつかり見据えて、国民が何を望んでいるのか、国はどうあるべきなのかを冷静に考えなければなりません。こうした現実に対する認識は、誠に重要なことだと思つています。

しかし、現実をありのままに見ることはある意味では大変おそろしいことでもあります。現実を冷静にしつかり見たときに、時には自分達にとって都合な現実を見ざるを得ない場面に直面することもあります。

例えば幕末の時代、西洋列強を前にして、その強大な力を目の前にしながらも、現実を直視せずして攘夷というスローガンのもとに

手痛い思いをした歴史もありました。また昭和の始め、世界の厳しい現実を直視せずしてイデオロギーや観念を振りかざすことによつて無謀な戦争に突っ込んでしまい、破滅の道を歩んでしまった、こういった歴史もありました。

こうした歴史を振り返り、私たち日本人はその時をどう対応してきたのかを鑑みると、不都合な現実を見なかつたことにしてしまい、観念やイデオロギーに走つてしまったことが多々あります。誠に現実を冷静に見るということは大切なことではあります。かような現実に冷静に見ることが大変難しいことです。そして現実を見ることは勇気の要ることである、こんなことも感じているところで

私たち宏池会の先輩方は現実を見る勇氣を持ってきたからこそ所得倍増論を世に訴えることができたのではないかと、現実を見る勇氣を持っていたからこそ日中国交回復を実現するとい

つた大きな事業にも立ち向かうことができたのではないかと。こうした現実を見ることの重要性を改めて感じ、現実を見ることの難しさを感じ、そして現実を見ることの勇氣の大切さを改めて感じております。自由を語る勇氣と、現実を見る勇氣。この「2つの勇氣」こそ、私たち宏池会の先輩方がつくつてきた歴史であり、財産です。私たち宏池会は創設六十周年を迎えましたが、先輩方がつくつたこの「2つの勇氣」、この財産に思いを巡らせながら、未来に向けてどんな勇氣を私たちはふるうべきなのか。これをしつかり考えていき

たいと考えております。

これらの宏池会の歴史と伝統と文化を継承してきた我々は、この新しい時代にあつて大きな存在感を示していく必要があります。いま世界は内向き傾向にありますが、自由と民主主義によつて戦後復興を成し遂げた日本は、いまこそ「2つの勇氣」の信念のもと、現実的な政策が求められています。宏池会の同志一同が一致団結してこの時代に立ち向かい、国民と共にその期待に応えていかなければなりません。

宏池会創設六十周年を胸に、歴史を糧に未来への挑戦を続けて参ります。今後ともどうぞ多くの方の幅広いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆日露外務・防衛閣僚協議(「2+2」)

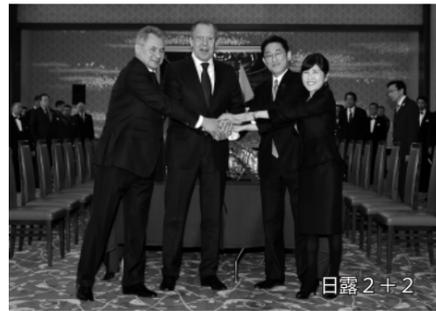
3月20日、ロシアのラヴロフ外相とショイグ国防相が来日され、日露外務・防衛・閣僚協議(2+2)が開催されました。日露2+2は2013年以来の2回目となりましたが、その際も日本の外務大臣は岸田文雄、ロシアの外相はラヴロフ氏でした。

ロシアとは様々な懸案が山積していますが、だからこそ閣僚級の間でも率直な意見交換ができるよう、2+2などをはじめとする機会を大切にしていかなければなりません。

併せて次回の2+2はロシアで開催することも両国間で一致しました。



日露外相会合



日露2+2



ラヴロフ外相とワーキングランチ

◆G7外相会合(イタリア・ルッカ)

4月10日から11日にかけて、イタリアのルッカで開催されたG7外相会合に出席しました。岸田文雄外務大臣はこれで4回目のG7外相会合の出席となり、現在G7の外相の中で最多の出席、最長の在任期間となっています。

この会合では、シリアやイラク問題、北朝鮮問題をはじめ、テロ対策や軍縮・核不拡散の問題など、幅広い多くの問題を議論致しました。



G7外相会合



EUのモゲリーニ外相



ドイツのガブリエル外相会談



シリア関連会合



米国のティラソン外相



イタリアのアルファノー外相



G7外相による市内視察



宏池会と語る会での挨拶